

北見工業大学学報

第 278 号 (2016 年 11 月号)

目 次

入 学 式	平成 28 年度秋季大学院入学式を挙行……………	3
研 究 助 成	平成 28 年度共同研究の受入状況……………	4
	平成 28 年度受託研究の受入状況……………	5
	平成 28 年度奨学寄附金の受入状況……………	5
諸 報	ブック・プロジェクトによるビブリオバトルを開催……………	6
	高大連携協力に関する協定に基づく事業を実施……………	7
	父母懇談会(秋季・札幌、東京)を開催……………	9
	改組についての記者会見を実施……………	10
	Bio Japan2016 北海道ブースへ出展……………	11
	平成 28 年度消防訓練を実施……………	12
	『北海道環境学習フェア 2016』を開催……………	13
	自動車技術会 2016 年秋季大会産学ポスターセッションに出展……………	14
	国立大学法人等監事協議会北海道支部会を開催……………	15
	メッセナゴヤ 2016 北海道ブースに出展……………	16
	平成 28 年度第 2 回学生選書ツアーを実施……………	17
	社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員合同会議を開催……………	18
	COC+「オホーツク地域創生シンポジウム in 北見工大」を開催……………	19
	『第一回ハッカソン in 北見工大』を開催……………	20
	ユニバーシアード日本代表カーリング部男子チームが学長を表敬訪問……………	21
	メンタルヘルス研修を実施……………	23

	第30回北海道技術・ビジネス交流会(ビジネス EXPO)に出展	24
	美山小学校「科学ものづくりクラブ」で学生が先生役に挑戦	25
	アグリビジネス創出フェア in Hokkaidoに出展	26
	陸別町で連携事業に参加	27
	永年勤務者表彰式を挙	28
	事務職員のための講演会を開催	29
目 誌	10月・11月	30

= 入学式 =

平成 28 年度秋季大学院入学式を挙行

(総務課)

平成 28 年度秋季大学院入学式が、10 月 3 日（月）午前 10 時から、本学第 1 会議室で行われました。

高橋信夫学長から、留学生を含む 10 人の入学が許可された後、「学業面・研究面で

実りある学生生活を送ってほしい」と激励の言葉がありました。

引き続き、総務課長から役職員等の紹介が行われました。

入学者は次のとおりです。

大学院博士前期課程

専攻名	入学者数(人)
社会環境工学専攻	1

大学院博士後期課程

専攻名	入学者数(人)
生産基盤工学専攻	2
寒冷地・環境・エネルギー工学専攻	4
医療工学専攻	3



お祝いの言葉を述べる高橋学長



入学式終了後の集合写真

平成28年度共同研究の受入状況

平成28年11月30日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民 間 機 関 等
機械工学科	准教授	林田 和宏	ディーゼル機関の噴霧計測に関する基礎研究—燃焼解析に活かせる噴霧長・噴霧角・着火位置・蒸気濃度など噴霧特性の計測手法	いすゞ自動車株式会社 CAEデジタル開発推進部
バイオ環境化学科	准教授	岡崎 文保	廃プラスチックガス化反応メカニズムに関する研究	JFEスチール株式会社
社会環境工学科	教授	川村 彰	ワイヤレス路面性状測定装置の開発	株式会社PROFICT LAB
機械工学科	教授	羽二生 博之	コンクリート下空洞部検出用遠赤外線カメラの歪み補正と温度表示	株式会社豊水設計
社会環境工学科	助教	川尻 峻三	積雪寒冷地における既設補強土壁の健全度評価手法の確立に関する研究	国立研究開発法人 土木研究所寒地土木研究所

平成28年度累計77件

平成28年度受託研究の受入状況

平成28年11月30日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究担当者	研究題目	委託機関	所要経費
機械工学科	助教	吉田 裕	放電プラズマ焼結理論で製造した傾斜機能材料 (FGM) の組織分析	株式会社エヌジェーエス北海道 SPSセンター	49,400
社会環境工学科	助教	大野 浩	平成28年度環境研究総合推進費（永久凍土大規模融解による温室効果ガス放出量の現状評価と将来予測）による研究委託業務のうち、（巨大地下水氷体および凍土堆積物中の有機炭素（温室効果ガス）量の把握）による研究委託業務	国立研究開発法人 海洋研究開発機構	10,096,000
社会環境工学科	教授	三上 修一	RC製円形貯留槽の底版破壊に関する検証と補修工法の検討	興部町	388,800
社会環境工学科	教授	三上 修一	(SIP) 北見地域におけるアセットマネジメント実装に関する研究開発	国立研究開発法人 科学技術振興機構	637,456

平成28年度累計11件

平成28年度奨学寄附金の受入状況

平成28年11月30日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究者	寄附目的	寄附者	寄附金額
社会環境工学科	教授	高橋 清	工学研究のため	株式会社ドーコン	300,000
社会連携推進センター	教授	有田 敏彦	平成28年度 ほくとう総研地域活性化連携支援事業として 事業名：「オホーツク圏における遊休公設施設の実態と利活用に関する調査」	一般財団法人 北海道東北地域経済総合研究所	500,000
社会環境工学科	准教授	川口 貴之	補強土壁の凍上・融解耐久性に関する実験研究のため	岡三リビック株式会社	350,000
社会環境工学科	教授	高橋 清	工学研究のため	日本工営株式会社 コンサルタント国内事業本部	300,000
電気電子工学科	教授 准教授	田村 淳二 高橋 理音	出力変動電源の大量導入による系統影響評価と安定化技術に関する研究	北海道電力株式会社	1,000,000
バイオ環境化学科	准教授	新井 博文	黒ニンニク抽出物の酸化ストレス抑制作用に関する研究に要する費用	日本製薬工業株式会社	500,000
	学長	高橋 信夫	学生に対する支援	北見工業大学後援会	550,000

平成28年度累計45件

＝諸報＝

ブック・プロジェクトによるビブリオバトルを開催

(情報図書課)

10月2日(日)、北見市立中央図書館においてBP(ブック・プロジェクト)によるビブリオバトル(書評合戦)を開催しました。

北見市立中央図書館のイベント「第20回 図書館まつり」におけるプログラムの一つとして、本学図書館との連携協力のもと実施したものです。当日イベントに訪れた市民の方々がビブリオバトル会場へも足を運び、BPメンバー4名の発表を観戦しました。市立中央図書館でもBPを参考に、今後の活動にビブリオバトルを取り入れていきたいとのことです。

また、10月26日(水)には、本学図書

館コミュニケーションホールを会場として「全国大学ビブリオバトル2016」の予選会を開催しました。

発表者の5名がおすすめる本それぞれについて、観戦者の19名も興味をもって積極的に質問を投げかけていました。投票の結果、昨年の予選会に引き続きBPメンバーの高橋毬藻さん(バイオ環境化学科2年)がチャンプ本を獲得し、深川で開催される地区決戦に進出しました。

二度続けてのビブリオバトル開催となり、BPはなかなか大変だったようです。BPの活動をとおして、読書への興味、関心が他の学生にも広がることを期待しています。



ビブリオバトル開催の様子

高大連携協力に関する協定に基づく事業を実施

(学 務 課)

北見工業大学と北海道遠軽高等学校との高大連携協力に関する協定に基づく事業を下記のとおり実施しました。

★ピアサポート事業

本事業は、本学の学生が高校生に学習指導を行うことにより指導方法を体得することを目的に、10月8日（土）に学部学生・大学院生 15 名が遠軽高校を訪問し、28 名の生徒に対する数学の学習指導に当たりました。

今年度は、1～2 名の高校生の各グループに対し、それぞれ 1 名ずつのピアサポート学生がつきっきりで指導するとともに、勉強方法や大学生活についての相談に対応するなど密度の濃い指導ができました。

指導を受けた高校生からは、「数学が少し好きになった」「楽しく勉強することが出来た」等の感想がありました。

また、参加したピアサポートの大学生からは「教える側の大変さを実感することができた」「自分のスキルアップになった」との感想があり、本事業を通して学習指導方法を体得することができ、今後の自身の進路等を選択するうえで貴重な体験をすることができたものと思います。



ピアサポートの様子

★研究室訪問

10月20日（木）に遠軽高校の生徒7人が社会環境工学科を訪問しました。

当日は9時30分から14時30分まで講義、表面波探査や簡易貫入試験の体験学習、X線CT装置に関する説明等が行われ、大学での学びを体験しました。

実際に大学の研究室に触れる機会を得たことにより、参加した高校生からは「普段は体験できないようなことができて良い経験になった」「今後の進路を考える上でとても参考になった」との感想が聞かれました。



研究室訪問の様子

★異校種連携事業

11月16日（水）に遠軽高校で開催された「異校種連携事業」に本学から3講座を開設しました。

本事業は、遠軽高校が小・中・高校及び道内大学と連携することにより、系統的なキャリア教育の推進を目的として実施しているもので、本学は高大連携事業の一環として参加しているものです。遠軽町内の小学6年生及び中学2年生120人が『「温度」

って何だろう？－温度と熱の関係』、『液化化実験ボトルを作ってみよう』、『極低温を体験しよう！！』の3つのテーマに分かれそれぞれ実験を行いました。

参加した小・中学生にとっては、普段触れることのない大学の研究に触れることができ、科学に対する興味を持つとともに、学習意欲への大きな刺激となったものと思います。



異校種連携事業の様子

父母懇談会（秋季・札幌、東京）を開催

（学 務 課）

例年開催している「父母懇談会（秋季・札幌、東京）」を、札幌は10月10日（月・祝日）に北海道大学学術交流会館、東京は10月23日（日）に学術総合センターを会場としてそれぞれ実施しました。

札幌会場には、95組の保護者が参加し、富田剛夫学生後援会会長から後援会の活動状況等の報告、田村淳二理事・副学長から「本学の教育及び就職状況等」についての説明など様々な情報が保護者に提供されました。

東京会場には、100組の保護者が参加し、

全体説明会において田村理事・副学長から札幌会場と同様の説明がありました。

札幌、東京いずれの会場とも個別面談では修学状況、就職等について保護者から質問が出され、熱心にやりとりが交わされました。

参加した保護者からは、「先生から本人の話聞いて良かったです。」「個別面談では詳しく教えて頂き理解することができました。」「先生が、学生の事をよく理解して下さっていると思いました。」などの声が寄せられ、好評を博しました。



個別面談の様子



全体説明会の様子

改組についての記者会見を実施

(総務課)

10月11日(火)に学部改組についての記者会見を行いました。

平成29年4月に、現在の6学科制から「地球環境工学科」「地域未来デザイン工学科」の2学科制に変わることについて、高橋信夫学長から趣旨と概要を説明しました。

また、入試の概要については田村淳二理

事から説明を行いました。

参加した記者からは、2年次後期から選択する8つのコースの制度について、またインターンシップなどの地域との連携について、予定時間を超える多数の質問が寄せられました。



説明を行う高橋学長・田村理事



会場の様子

Bio Japan2016 北海道ブースへ出展

(社会連携推進センター)

10月12日(水)～14日(金)の3日間、パシフィコ横浜を会場としたBio Japan2016が開催されました。本イベントはバイオ・メディカル産業におけるアジア最大級のパートナーリングイベントで、国内外から製薬会社や医療機関、研究機関が多数参加しました。同時開催の再生医療Japan2016と併せて参加者は1万5千人にのびりました。

本学は北海道庁、札幌市、ノーステック財団が共同出展する「北海道バイオクラスター」ブース内に出展しました。初参加となる今回は、情報システム工学科の早川吉彦准教授の「咀嚼と瞬きの非接触解析システム」について紹介を行いました。

会場では早川准教授と本学4年生の水上京介さんが、次々と訪れる来場者への説明を行いました。

実際にシステムの体験もできるとあり、特に医療関係者やヘルスケアビジネスの関係者から注目を集めました。用意した論文の別刷が不足するなど、研究に対する関心の高さが窺えました。来場者の中にはシステムを応用した研究についての質問もあり、今後の共同研究への発展も期待できるものとなりました。

本学ブースには3日間で約60名が訪れ、活気にあふれるイベントとなりました。

今回が初めての出展となりましたが、収穫も多く本学の研究を広くアピールできる場であると感じました。バイオメディカル・ヘルスケア技術に関する研究を紹介する貴重な機会として、今後も出展を継続していきたいと考えております。



研究紹介を行った早川准教授と水上さん



北海道バイオクラスターブースの様子

平成 28 年度消防訓練を実施

(施 設 課)

10月13日(木)に震度5強の地震に伴う火災発生を想定した消防訓練を実施しました。

訓練当日は社会環境工学科の学生や教職員等、約60名が参加しました。

社会環境工学科1号棟の研究室を仮想火元として、第一発見者である学生の通報から始まり、学科教員による初期消火および残留者の確認、事務職員による避難誘導および負傷者の搬出を実施しました。続いて、梯子車による避難訓練、屋内消火栓の取扱・放水訓練、消火器の取扱訓練を実施し

ました。消火器取扱訓練では、使用説明の後、本物の消火器の代わりに水消火器を使い、消火訓練を行いました。

消火器取扱訓練終了後は、立ち会った北見地区消防組合本部の署員から講評をいただきました。

消防訓練の最後には、吉田孝理事から日常生活の中でも災害発生の危険があるので、日頃より消火器等の設備の位置を確認しておくようにすること等の挨拶があり、無事に終了しました。



梯子車による救助訓練



消火器取扱訓練

『北海道環境学習フェア 2016』を開催

(社会連携推進機構)

10月15日(土)、北海道教育委員会主催による『北海道環境学習フェア2016』が、本学を会場として開催されました。

同フェアでは、北海道道東地域の小・中・高校11校から環境に関する取組み実践例16テーマについて、ポスターセッション形式で発表がありました。本学からもKITecoの活動発表を行いました。それぞれ工夫をこらした発表となり、参加者から多くの質問が出ていました。

また、本学社会環境工学科亀田貴雄教授による講演会「南極での雪氷研究—知られざるマイナス70℃の雪と氷の世界—」を開催しました。講演時間終了後、亀田教授に

熱心に質問する高校生の姿があり、興味の深さを感じました。

さらに、本学教職員及び学生による体験型学習として、小学生向けに3テーマ、中・高校・一般向けに8テーマの科学実験を行いました。会場には小学生から一般市民まで100人を超える参加者が訪れ、環境をテーマとした様々な企画を楽しんでいました。

本学教職員及び学生の協力により、成功裏に終えることができました。

今後も、オホーツク地域はもとより全道域での様々な企画に積極的に協力支援を行い、本学のシーズを有効に活用し、元気な地域づくりに貢献したいと考えています。



亀田教授による講演



ポスターセッションの様子



小学生向け体験学習



中・高校生・一般向けの体験学習

自動車技術会 2016 年秋季大会産学ポスターセッションに出展

(社会連携推進センター)

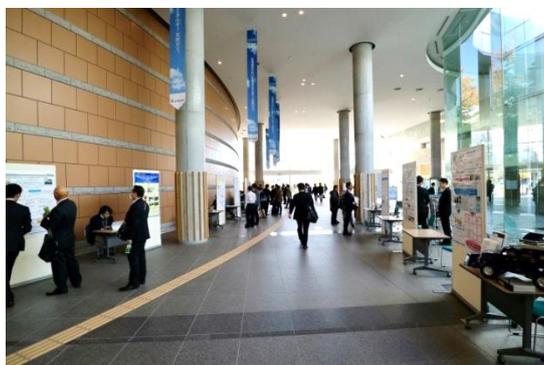
10月19日(水)～21日(金)の3日間、札幌コンベンションセンターを会場に自動車技術会2016年秋季大会が開催されました。この大会では、「産学ポスターセッション～シーズとニーズの出会い～」が開かれ、3日間を通して全国25の大学・高専の研究室からの自動車技術に関する研究成果の発表がありました。

本学は、技術広報の一環として昨年度から本ポスターセッションに参加しています。今年度は昨年度に引き続き、社会環境工学科川村彰教授、富山和也助教が取り組む、「車両挙動解析による路面プロファイルのリアルタイム計測技術」について紹介しました。

会場では富山助教と学生2名がブースで説明を行い、ラジコンカーを用いての計測の実演など来場者の目を引く展示を行いました。本学ブースには3日間で60人以上の方が訪れ、中には本学の研究を目当てに来場された方もいらっしゃいました。

他大学や自動車関係の業種の方との情報共有はもちろんのこと、実用化に向けた具体的な話もあがりました。学生にとっても研究を通じて他大学・企業との交流を図る貴重な体験ができる場となりました。

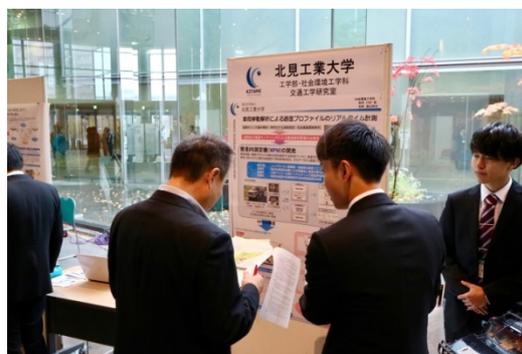
来年度は大阪での開催となりますが、今後も研究者にとって研究の発展に有意義な機会としてぜひ活用していきたいと考えています。



会場の様子



本学ブース



説明を行う本学学生

国立大学法人等監事協議会北海道支部会を開催

(総務課)

平成28年10月25日(火)、本学を会場として、国立大学法人等監事協議会北海道支部会が開催されました。

当日は、道内7法人から監事13人が出席し、国立大学法人等監事協議会北海道支部会会則についての議論や、各法人における監事監査の状況について活発な意見交換が行われたほか、文部科学省高等教育局国立大学法人支援課安井順一郎企画官から、「国立大学法人等に係る最近の動向等について」の講演がありました。講演会は、同支部会

の配慮により、同大教職員も聴講し、演題に対する関心の高さから、聴講者は100名を超え、会場となった多目的講義室はほぼ満席となるほど盛況でした。

会議終了後には、今年度発足した冬季スポーツ科学研究推進センターにて、鈴木聡一郎センター長によるセンターの概要説明や、スキーツー選手のデータを測定するスキーシュミレーターの実演が行われ、特色ある研究を興味深く視察しました。



会議の様子



安井企画官による講演

メッセナゴヤ 2016 北海道ブースへ出展

(社会連携推進センター)

10月26日(水)～29日(土)の4日間、名古屋市国際展示場(ポートメッセなごや)を会場としたメッセナゴヤ2016が開催されました。本フェアは中京圏を中心とした自動車関連企業、名古屋地域のモノづくり企業が出展参加する日本最大級の異業種交流展示会です。また、会期中は各種セミナーの開催や学生の就職支援、東日本・熊本復興支援コーナーが設けられるなど、展示会以外にも様々な催しが行われました。今年は過去最多となる1,400を超える企業・団体が出展し、来場者は約6万4千人にのぼりました。

北海道では、中京圏市場に対し北海道内企業や学術機関の技術・製品等、高い技術のアピールを目的として北海道ブースを設けています。北海道の企業や学術機関が有

する自動車関連技術、医療、エネルギー、環境関連技術、寒冷地技術を活かした新エネルギー・省エネルギー化などの取り組みに焦点をあてた展示を行い、24の企業・団体と4つの大学が出展しました。

本学は2013年から出展しており、今年は、機械工学科の鈴木聡一郎教授が取り組む「競技で好成績を生むアスリート用スキーブーツおよび中敷部材の設計」と、今年度開設された冬季スポーツ科学研究推進センターについて紹介しました。用意した資料がすべて配布されるなど、来場者から多くの関心が寄せられました。

本学は中京圏出身の学生が多く、名古屋で行われた今回のイベントへの参加は、大学広報の面からも貴重な場となりました。



本学ブースの様子



北海道ブースの様子

平成 28 年度第 2 回学生選書ツアーを実施

(情報図書課)

10月27日(木)、コーチャンフォー北見店において平成28年度第2回「学生選書ツアー」を実施しました。

7月に実施した第1回とはテーマを変えて、「興味・関心の広がる本」「自分を磨くための本」「読書が楽しみになる本」を選書しています。

参加人数は前回よりも少ない6名であったものの、熱心に取り組んでもらった結果、

冊数では前回を超える合計36冊の本を選んでいただきました。そのジャンルは多岐にわたり、哲学、鉱物からカメラ、時計など様々です。

ツアーで選んだ本は、選書理由などを記載したカードと併せて、1月上旬まで図書館特設コーナーに展示しています。

是非図書館にお越しいただき、展示をご覧ください。



選書する学生の様子

社会連携推進センター 産学官連携推進員・協力員合同会議を開催

(社会連携推進センター)

10月27日(木)、本学において北見工業大学社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員合同会議を開催しました。

本会議は、オホーツク地域の経済発展及び地域活性化を目指し、周辺自治体・大学・公設試験場・包括連携協定締結機関等の関連部署担当者に「産学官連携推進員・協力員」を委嘱し、地域における産学官連携に関する議論・情報交換等を行っているものです。

今回の協議テーマは「第一次産業への工学活用と地域連携」と題し、第一次産業への工学活用として、本学が北見市との貸与契約により旧競馬場跡地を利活用している

状況について報告しました。次に、各自治体が抱えている課題等について、実際に担当者からの発言を交えながら意見交換を行いました。さらに、出席者からの情報提供では、帯広畜産大学の学生と地域との交流、地元への定着率の高さ等、大変貴重な情報をいただきました。本会議は、総勢41人の出席者となり、各自治体関係者が一堂に会して開催したことは大変有意義な機会であったと思います。

今後もこの会議を有効に活用し、地域の課題解決に向けて取り組んでいきたいと考えております。



鈴木センター長の挨拶



全体の様子

COC+「オホーツク地域創生シンポジウム in 北見工大」を開催

(学長企画室)

10月29日(土)に講堂において、「オホーツク地域創生シンポジウム in 北見工大」を開催しました。

この事業は、平成27年度文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」の採択を受けた『オール北海道雇用創出・若手定着プロジェクト「ものづくり・人材」が拓く「まち・ひと・しごとづくり」』の取組みとして開催したもので、北海道内外から高等教育機関、地方公共団体、経済界等の関係者約300人が参加しました。

高橋信夫学長による開会挨拶に始まり、高橋はるみ北海道知事からの祝電及び辻直孝北見市長からのお祝いのメッセージが披露された後、基調講演及びパネルディスカッションが行われました。

基調講演では、始めに「大学と地方創生」と題し、文部科学省高等教育局大学振興課長角田喜彦氏から、続いて「地方創生のサポーター、大学連携について」と題し、小清水町農業協同組合参事眞柳正嗣氏から、

地方大学の使命や地方創生への可能性、大学との連携への期待などについてご講演いただきました。

パネルディスカッションでは、北海道オホーツク総合振興局副局長清水敬二氏、北見信用金庫理事長太布康洋氏、北見商工会議所副会頭舩川誠氏、小清水町農業協同組合参事眞柳正嗣氏、室蘭工業大学地(知)の拠点推進室長那須守氏をパネリストとして、それぞれの立場から一次産業を基盤とするオホーツク地域の課題と今後の取組みの可能性について、活発な意見交換が行われました。

参加者からは「北見工大の改革意識が伝わってきた」、「地域に根ざした新しい取組みに期待する」などの感想が寄せられました。

今後は、産学官金の連携を強化し、地域の雇用創出、若手定着の取組みを推進していきます。



角田課長による基調講演



パネルディスカッションの光景

『第一回ハッカソン in 北見工大』を開催

(社会連携推進機構)

10月29日(土)、本学において『第一回ハッカソン in 北見工大』が開催されました。

この大会は、北見市及びスマートフォン研究会が主催となり、本学学生を対象に仲間同士でアイデアやソフトウェアの開発技術を競い合い、ハッカのまち北見から世界を変える第一歩を踏み出そうというものです。

初めての開催となる本企画には、本学学生40人ほどが参加しました。参加者は2～5人のチームで約6時間をかけてアイデアを出し合いプログラミング等を行い、最後に3分間のプレゼンで競い合いました。結果、大賞には女子2人組が選ばれ、賞品

が贈呈されました。

この大会は、場所や時間にとらわれずに働く「テレワーク」を推進している北見市が、将来テレワークの仕事として注目されているアプリの開発者を地元で育成しようと企画したものでもあります。

地方創生施策として地域に若者を定着させるべく、地元自治体や企業が様々な角度から学生との交流や地域での仕事場の提供等に力を注いでいます。

本学でも、学生参加型のイベントを企画する等、学生が地域で活躍できる場を求めて、他機関と連携しながら地域を盛り上げていきたいと考えております。



ハッカソンのポスター



大賞表彰式



会場の様子

ユニバーシアード日本代表 カーリング部男子チームが学長を表敬訪問

(学 務 課)

10月31日（月）に第28回ユニバーシアード冬季競技大会（2017／アルマティ）の日本代表となった本学カーリング部男子チームが高橋信夫学長を表敬訪問しました。

高橋学長と柴野純一副学長から、代表決定戦の予選リーグで2敗したものの、その後一度も負けることなく並み居る強豪大学に勝利した、今回の価値ある優勝への賛辞が送られました。

高橋学長から今回の勝因を問われ、選手からは、昨年の代表決定戦で力を出し切れなかった苦い経験を踏まえ、チームとしてメンタルトレーニングに取り組んだことや、情報システム工学科榊井文人准教授が開発した、ショット率などをデータ化するアプリによる分析を試合に活かせたことが効果

的であったとの説明がありました。

顧問の柳等准教授（日本カーリング協会強化委員長）から、「よりレベルの高い外国チームと試合を行うことになるが、気後れすることなく上位トーナメント進出を目標にしたい。」と意気込みが語られ、高橋学長からは、「大学を挙げて応援するので、存分に力を発揮して欲しい。」とエールが送られました。

今回のカーリング部男子チームの快挙は、大学や地域に勇気と活気を与える出来事であり、学内以外にも市内のまちきた大通りビルや女満別空港にも広告や垂れ幕を掲出し、オホーツク地域全体としてチームを応援するムードが広まっています。



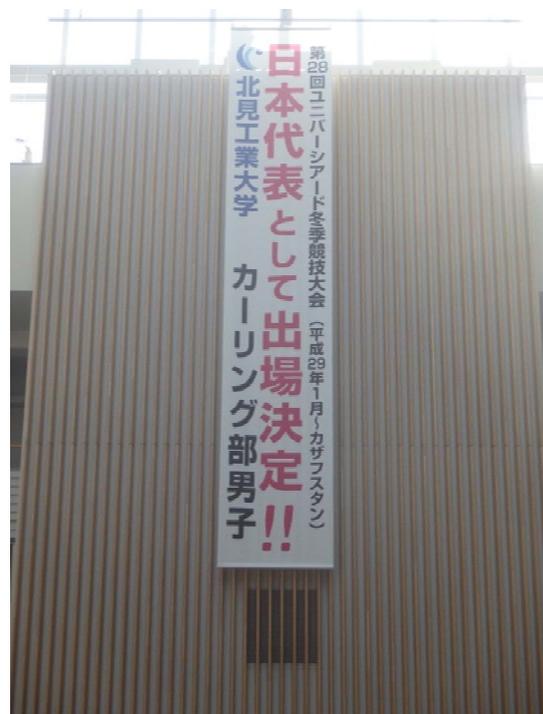
高橋学長（中央）、柴野副学長（左から1人目）、
柳准教授（右から1人目）とカーリング部男子チーム



女満別空港の広告



まち北大通りビルの垂幕



学内(コミュニケーションアトリウム)の垂幕

メンタルヘルス研修を実施

(総務課)

11月10日（木）、メンタルヘルス研修を実施し、教職員約50名が参加しました。

本研修はメンタルヘルスに関する理解を深めるとともに、自分のストレス耐性を高め、日ごろの注意点・対策方法を習得するなど、健全な労働環境を確保することを目的として実施しました。

講師である株式会社インソースの有田恵氏から、メンタルヘルスの現状やストレスの要因及び対処法等について研修していただき、参加した教職員は熱心に聴き入りながら、メンタルヘルスに対する認識と対処法への理解を深めていました。



研修時の様子

第30回北海道技術・ビジネス交流会（ビジネス EXPO）に出展

（社会連携推進センター）

11月10日（木）～11日（金）の2日間、アクセスサッポロを会場にビジネスEXPOが開催されました。

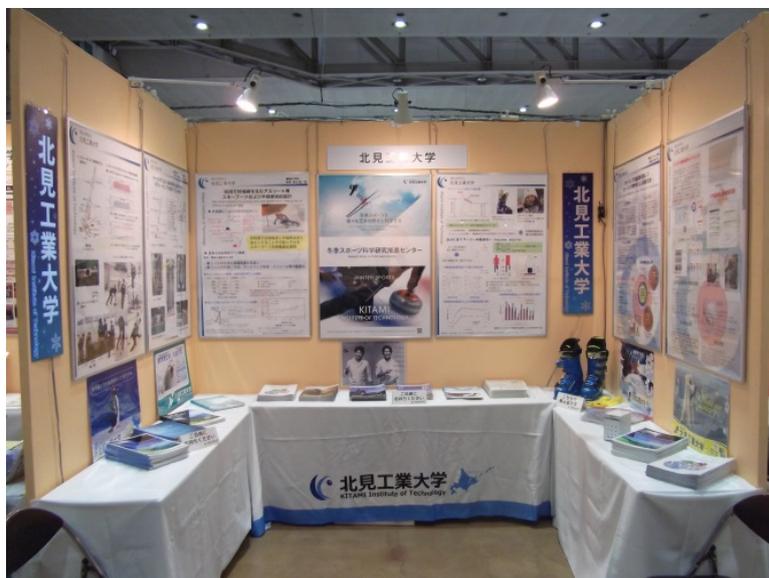
本イベントは北海道内の産学官金の関係諸機関が協力し開催しています。毎年、350以上の企業・団体が参加し、2万人程の来場者を迎える北海道最大級の産業関連連携マッチングイベントです。会場ではこの他9つのイベントが同時開催され、各所で賑わいを見せていました。また、「学生さん向け見学ブース」の設置や、企業研究・相談会を行うなど、学生の就職活動を支援する取り組みも行われています。

本学は「学術・試験研究機関展示ゾーン」

において、今年度開設した冬季スポーツ科学研究推進センターについて紹介を行いました。会場では製品化されているスキーブーツや中敷部材（ステルステック）の展示も行い、来場者に本学の技術をPRしました。

本イベントには例年、出展者や来場者として本学出身の先輩達も数多く訪れます。仕事面での興味だけでなく懐かしさに惹かれて立ち寄るなど、先輩方の母校への愛着を垣間見ることもできました。

就職等の情報収集にも大変役立つ良い機会であり、イベントで本学を紹介することの重要性を再確認する場となりました。



本学のブース

美山小学校「科学ものづくりクラブ」で学生が先生役に挑戦

(社会連携推進センター)

11月10日(木)と24日(木)の両日、美山小学校「科学ものづくりクラブ」で本学の学生が先生役となり、実験企画・教室開催を行いました。5年目を迎えたこの取り組みは、オホーツク地域エネルギー環境教育研究会(OE³、オー・イー・キュービック)の活動をきっかけに始まりました。学生たちは小学生に科学の楽しさを知ってもらおうと、身近なものを用いて実験を行うなど工夫を凝らして継続的に教室を開催してきました。

今年度の第1回目は、ハッカを用いた草木染めを行いました。輪ゴムや割り箸を用いた絞り染めにも挑戦し、それぞれ自由に模様を描いていました。使う試薬によって色が変わるため、生徒からは染め上がりがイメージしていた色と違いびっくりしたという声があがっていました。

第2回目では、人工イクラを作る実験を行

いました。作ったイクラは実際に試食を行い、生徒たちは普段食べているイクラに近いという感想を口にしていました。両日も30名ほどの生徒が集まり、学生の説明に真剣に耳を傾けていました。生徒たちは積極的に質問を行うなど、楽しみながら科学について学んでいる様子でした。

参加した小学生や担当の先生からは、科学への興味が深まる良い機会になったと好評をいただいています。また、参加した学生は「普段とは反対の教える立場なので、大変だが非常にやりがいがあり、貴重な体験になった」と今回の企画を振り返りました。

この活動は本学の地域への貢献となるだけでなく、学生にとっても良い勉強の機会となるため、今後も活動を継続していきたいと考えています。



ハッカを用いた草木染めの実験



人工イクラ作りの説明の様子

アグリビジネス創出フェア in Hokkaido に参加

(社会連携推進センター)

11月11日(金)～12日(土)の2日間、サッポロファクトリーを会場に「アグリビジネス創出フェア in Hokkaidoー北海道の食と農の明日へ」が開催されました。NPO 法人グリーンテクノバンクが主催し、12月に東京で開催される「アグリビジネス創出フェア」の北海道版という位置づけの本イベントには、食や農業に関する約 30 の企業・団体が出展しました。

本学からは社会連携推進センターの有田敏彦教授が参加し、本学が取り組んでいる工農教育事業により開発された商品について展示・広報を行いました。また、共同出展した雇用創造協議会からは鹿肉ふりかけとお酒に合うスイーツの試食も行われ、多

くの来場者の興味を集めました。

本学ブースではこれら商品に関するアンケートも行い、今後の商品開発において有益な情報を得ることができました。また、ブースプレゼンテーションでは来場者の投票により本学が優秀賞に選ばれました。工農教育事業についてはもちろんのこと、本学についてより知っていただくことができました。

会場には一般の方々や本学の先輩方も数多く来場し、本学の活動や最近の動向に興味を持っていただきました。「ビジネスEXPO」と同様、本学先輩への近況報告や就職活動、入試案内など、様々な面で意義の深い場となりました。



本学の展示ブース



表彰式の様子

陸別町で連携事業に参加

(社会連携推進センター)

11月12日(土)、「陸別町社会連携連絡協議会」包括締結に基づく事業として、北海道大学、名古屋大学、国立環境研究所、国立極地研究所、本学による『驚き！おもしろ科学実験2016』が、りくべつ宇宙地球科学館銀河の森天文台で開催されました。

寒冷域の自然条件に恵まれた陸別町で大気変動やオーロラなどの研究を行ってきた関連機関が、平成24年度から地元での活動事業として取り組んでいるものです。

本学からは、オホーツク地域エネルギー環境教育研究会委員長でバイオ環境化学科の岡崎文保准教授が学生と一緒に実験ブー

スを出店しました。会場は、地元の小学生から大人まで多くの町民で大賑わいでした。また、前日の11日(金)には陸別小学校及び中学校で出前授業が開催され、本学からは社会環境工学科の亀田貴雄教授が参加しました。

このように、理科教育のために各機関の研究者が地域との交流事業に参画し、様々な角度から協力しています。

今後も他機関との連携を含め、地域の活性化に向けて積極的に参加していきたいと思えます。



会場の様子

永年勤務者表彰式を挙

(総務課)

平成 28 年度国立大学法人北見工業大学
永年勤務者表彰式が 11 月 22 日 (火) に第
2 会議室において挙行されました。

高橋信夫学長から被表彰者に対し、表彰

状の授与並びに記念品の贈呈が行われ、永
年にわたる本学への貢献に対する感謝とお
祝いの言葉が贈られました。

被表彰者は、次のとおりです。

北見工業大学永年勤務者表彰被表彰者 (50 音順)

30 年勤務者

氏名	所属学科等
杉野 豪	技術部
高橋 定志	総務課
長縄 保則	入試課
鳴島 史之	共通講座
橋本 晴美	技術部

20 年勤務者

氏名	所属学科等
柏 達也	電気電子工学科
亀丸 俊一	情報システム工学科
菊池 一修	財務課
河野 正晴	情報システム工学科
三浦 則明	情報システム工学科



永年勤務者表彰式被表彰者

事務職員のための講演会を開催

(総務課)

12月1日(木)、「平成28年度事務職員のための講演会」を開催し、高橋信夫学長・柴野純一副学長をはじめ、業務の都合によりやむを得ず欠席となった職員を除く全ての事務職員、及び道内の他大学等の職員が出席しました。

この講演会は、事務職員の資質向上を目的とした研修の一環として従来から開催しており、外部講師による国立大学事務職員として求められる知識・感覚・能力等についての講演等を通じて、事務職員としての自覚を促し、更に業務及び業務見直しへの一助とすることを目的に実施しました。講師として、文部科学省高等教育局国立大学法人支援課課長補佐の石橋晶氏を招き、「国立大学法人制度の基礎知識と最近の動向」と題した講演が行われました。

石橋補佐は講演の中で、大学制度の沿革、

国立大学の役割及び国立大学法人化の経緯等の国立大学法人制度に関する基礎的な知識について説明され、これまでの経験をもとに、ガバナンス機能の強化や国立大学法人法の改正等の最近の動向について、学長のリーダーシップやマネジメント力で自己改革を実行し、戦略的かつ経営的視点での大学運営が重要であることを強く主張されました。また、国立大学として、自主的・自律的な運営及び教育研究の活性化・個性化の進展といった法人化の原点を再認識し、大学の特色を生かした戦略の推進を期待しているとの激励がありました。

今回の講演会は、参加した職員一人一人が積極的に意識改革・業務改善に取り組む必要があることを改めて強く自覚する貴重な機会となりました。



講演する石橋補佐



受講者の様子

= 日誌 =

10 月

- 3日 オホーツク産学官融合センター事務局会議
- 5日 学術情報機構統括会議
- 6日 教育研究プロジェクト報告会
- 7日 発明審査委員会
- 8日 高大連携事業「ピアサポート」
- 10日 父母懇談会（札幌）
- 11日 第3回公開講座（～28日）
- 13日 消防訓練、社会連携推進センター運営会議、学術情報委員会
- 14日 教務委員会
- 15日 北海道環境学習フェア2016、第4回公開講座（～11月5日）
- 18日 学生委員会
- 19日 教育研究評議会、編入学試験（第2次募集）出願受付（～25日）
- 20日 遠軽高校研究室訪問
- 23日 父母懇談会（東京）
- 25日 国立大学法人等監事協議会北海道支部会、研究推進機構統括会議
- 27日 社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員合同会議、学生選書ツアー
- 29日 COC+「オホーツク地域創生シンポジウム in 北見工大」、ハッカソン in 北見工大

11 月

- 1日 推薦入試・帰国子女特別入試出願受付（～7日）
- 4日 入試企画センター運営会議
- 7日 社会連携推進センター運営会議、オホーツク産学官融合センター事務局会議
- 8日 エネルギーミックスセミナー、教務委員会
- 9日 推薦入学者選抜実施委員会、入学者選抜委員会
- 10日 メンタルヘルス研修
- 11日 北海道中小企業家同友会全道青年部・後継者部会交流会 in オホーツク、学術情報機構統括会議
- 15日 編入学試験（第2次募集）面接試験、学術情報委員会
- 16日 教育研究評議会、遠軽高校異校種連携事業
- 18日 学生委員会
- 21日 発明審査委員会、第5回公開講座（～29日）、推薦入学者選抜実施委員会
- 22日 永年勤務者表彰式
- 24日 入学試験実施委員会
- 25日 推薦入試、帰国子女入試